

2023年度 町田市立大蔵小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和6年3月31日

学校教育目標	○仲よく、助け合う子ども ○よく考え、くふうする子ども ○体をきたえ、やりぬく子ども	学校経営の重点……学校の主体は子供である。「あたりまえのことをあたりまえに」「だめなことばだめ」を基本姿勢として、子供の健やかな成長を願って教育活動を推進していく。
○目指す学校像………児童一人一人が大切にされ、生き生きしている学校。 ○目指す児童像………できる・分かる・もっとやりたいという学が喜びを味わい、互いのよさや成長を認め合い、学校へ行くことが楽しい思える児童。 ○目指す教師像………教職員としての専門性を磨き、学び合い、支え合い、高め合いながら、組織的に課題解決に取り組むことができる教師。	重点目標の成果と課題 挨拶、返事をはじめとする当たり前のことをその都度言わないとできるようにならない。また、頭ではいけないこととわかっているのに、感情の赴くまま、行動をしてしまいう児童も少なくない。粘り強い指導、繰り返しの指導を続けてきたが、徹底できていないことから、個への指導の在り方を見直す必要がある。特別支援教育の視点にたった指導の在り方を学ぶとともに、教員で指導に対する共通理解を図るだけではなく、どう徹底させていくかが課題である。	

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○ %	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価	
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	積極的な情報発信と公開を通して、教育活動への理解を求める。	ホームページを充実させ、定期的に更新して学校の様子を伝えていく。	4 週4回以上の更新 3 週3回以上の更新 2 週2回以上の更新 1 週1回以上の更新	4	A	A 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 55%未満	89.8	A	・学校評価アンケートによると、情報発信と教育活動への理解は高い数字であったが、地域連携教育活動に対しては、低い評価であった。VCを中心に各学年、地域連携活動を実施しているが、保護者に伝わっていないことである。	・ホームページについては、今後も学校生活の様子を毎日更新していくように努める。学校だよりや学年だよりも月初めに確実に載せるようにする。ただ、学校日記については、ほぼ一人で更新しているため、複数で更新できるようにしていく。学年だより等は、各学年担当に期日を守って更新できるように改めて指導していく。	・地域活動に対する先生方の積極的なアプローチを感じている。地域活動の様子をHP、クロムブックにVCによりしてどんどん載せていき、保護者に伝えたいです。	B	
			地域とともにある学校を目指すために、日々の教育活動や行事等を積極的に地域に公開していく。	4 必要情報の90%以上を周知 3 必要情報の80%以上を周知 2 必要情報の70%以上を周知 1 必要情報の70%未満を周知	4	A	A 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 55%未満	95	A	・外部講師やボランティアについては、VCを通して、計画的に活用していく。学校評価アンケートの結果が高くなかったので、ホームページやVCにより、各学級のクラスルームで活動の様子を発信をはしているが、認知度は低いようである。	・ホームページでの日々の様子などの紹介は継続されていて、わかりやすい良い。子供達には色々な体験をする時間が大切。大蔵小が、どんな方々と関わって教育活動をしているか、保護者に伝えていく工夫が必要。保護者が学校に関心を持つ何かを考えていきたい。	・情報交換の場だけではなく、委員は学校に興味を持たないとは質はあがらない。学校からも学校内の問題や課題などを提示して協議会内で話しが出来ると良い。		
			地域の環境を生かした活動、地域と共に活動する体験活動を企画し、実践していく。	学校運営協議会を通じて、目標や課題を共有し、教育の質の向上を図る。	4 年4回以上の開催 3 年3回以上の開催 2 年2回以上の開催 1 年1回以上の開催	4	A	A 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 55%未満	78.3	B				
			外部講師やボランティアを積極的に活用し、地域学校教育活動の充実を図る。	4 全学級が計画的に取り組んだ。 3 90%以上の学級が取り組んだ 2 80%以上の学級が取り組んだ 1 取り組んだ学級が80%未満	4	A	A 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 55%未満	65.8	C					
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	基礎的・基本的な知識・技能を個々の児童の実態に応じ、確実に身に付けさせる。	多層指導モデルMIMの研究を通して、アセスメントをもとに、個に応じた指導の充実を図る。	4 全学級が計画的に取り組んだ。 3 90%以上の学級が取り組んだ 2 80%以上の学級が取り組んだ 1 取り組んだ学級が80%未満	4	A	A 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 55%未満	90.2	A	・研究を通して、子供がつまづかないための支援やアセスメントをとる大切さなどを全教員で実践できた。	・次年度は、アセスメントをもとにした授業改善で町田市の研究指定を受けるので、今年度の研究成果をさらに生かしていけると考える。	・MIMの研究成果は興味深かった。継続してほしい。 ・子供のつまづきを見つけることは、学習面だけではなく、生活面の改善にも繋がると思う。	B	
			授業をデザインする8つの取組を意識した授業改善を図る。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	2.8	C	A 全職員の達成度評価「当てはまる」「だいたい当てはまる」 85%以上 B 全職員の達成度評価「当てはまる」「だいたい当てはまる」 70%以上 C 全職員の達成度評価「当てはまる」「だいたい当てはまる」 55%以上 D 全職員の達成度評価「当てはまる」「だいたい当てはまる」 55%未満	78.1	B	・読書活動については、朝読書や読書週間、読み聞かせ、学級によってはビブリオトークなどを行い、読書活動の推進を図ったが、結果は低かった。また、英語活動についても、高学年を中心に主体的に取り組む児童が多くなかった。家庭学習については、宿題なら行うが、自主学習的な課題となると、主体的に取り組む児童が少なかった。	・読書活動については、毎年のように評価が高くない。外部団体の読み聞かせ以外に保護者有志による読み聞かせを低学年で実施し、読書活動を推進していく。	・読書室にいく高学年が減ったのも、その頃から、文学をすすめることになり、そこから、興味を持てない子もいる。今、図書室には、多くの児童が興味を持てるような作品(映画になったもの、アニメからの文庫、ゲームからの文庫、歴史漫画)などを並べるようにしている。		
			学習への興味・関心を高め、主体的に「学び続ける」子供を育てる。	主体的に学びに向かう児童を目指し、(読書、英語活動、家庭学習)に進んで取り組む学習態度を育てる。	4 全学級が計画的に取り組んだ。 3 90%以上の学級が取り組んだ 2 80%以上の学級が取り組んだ 1 取り組んだ学級が80%未満	2	C	A 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 55%未満	63.8	C	・外国語、外国語活動については、児童の実態を十分に考慮して授業改善を図り、児童の興味関心を高めていく。	・学年によってICTの活用状況に差があるので、低学年より系統的にICT活用を図っていくようにしていく。		・図書活動については、「なぜ、4年生になると図書の授業がなくなるの？」という質問が多数。 読書室にいく高学年が減ったのも、その頃から、文学をすすめることになり、そこから、興味を持てない子もいる。今、図書室には、多くの児童が興味を持てるような作品(映画になったもの、アニメからの文庫、ゲームからの文庫、歴史漫画)などを並べるようにしている。
			めあてに応じて、ICT機器を効果的に活用する力を育てる。	4 90%の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3	B	A 学校評価アンケート「イ」⑤ICTの積極的活用」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「イ」⑤ICTの積極的活用」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」⑤ICTの積極的活用」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」⑤ICTの積極的活用」肯定的評価 55%未満	66	C	・ICT機器の活用についても、授業観察時は多くの教員がICT機器を活用した授業を行っているが、アンケート結果では高くない評価であった。		・そこから、本に興味を持ち始め、世界が広がっていく子も多数。		
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすること意識・意欲・態度を育てる。	安心安全な学校生活を送れるようにするために、一人一人の規範意識を高める。	「大蔵小学校スタンダード」に従って、統一した指導のもとで、規範意識の徹底を図る。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	4	A	A 学校評価アンケート「ウ」②「規範意識」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「ウ」②「規範意識」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」②「規範意識」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」②「規範意識」肯定的評価 55%未満	91.7	A	・挨拶については低くない評価ではあったが、外部の人への挨拶という点では、まだ十分とはいえない。	・規範意識の醸成については、保護者アンケートでは、高い評価をいただいたので、大蔵小スタンダードをもとに、きまりの意義について児童に理解させながら指導していく。	・挨拶は大切である習慣。学校全体で挨拶強化月間が必要。自ら挨拶する子は、あまりいない感覚。声を掛ければ返事がくる。自ら進んで挨拶をする子の育成のために教員が率先して挨拶や声掛けをすることは良いが、声を掛けられない子もいる。今、図書室がある。先生方が元気に声をかけている姿は気持ちいい。	C	
			自分から進んであいさつをする子の育成を図るため、教員が率先してあいさつをする。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3	B	A 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定的評価 55%未満	86.4	A	・学級活動を中心に話し合い活動を行う中で、子供たちが安心して意見や考えを発表できるようになってきている。ただ、積極的に意見を言えない児童への支援は必要である。	・代表委員会による挨拶運動を活性化し、児童から挨拶の大切さを伝える機会を作り、自ら挨拶できる児童の育成を目指す。	・不登校児童対応ひとつの対応から次へ繋がる対応へ。対応する側が、常に考えなければ、先へ進まない。会話から何に置き、何が不安のかを見つけて出す。子供の得意なことを見つけて、それを認めて、自己肯定感をあげる。学校で苦しくなったとしたら、いつかスクールカウンセラーに早期発見、早期指導を心がけていく。不登校児童への指導も、家庭との連携を大切にしたい。関係諸機関とも連携を図っていく。		
			すべての児童が明るく楽しい学校生活を送れるようにするため、相手を思いやる心を育てる。	道徳授業や学級活動を中心にして、安心して意見を言える学級づくりを行う。	4 すべての道徳授業・学級活動で指導実施 3 90%以上の道徳授業・学級活動で指導実施 2 80%以上の道徳授業・学級活動で指導実施 1 80%未満の道徳授業・学級活動で指導実施	2	C	A 学校評価アンケート「その他」①「心の教育」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「その他」①「心の教育」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「その他」①「心の教育」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「その他」①「心の教育」肯定的評価 55%未満	77.2	B	・いじめ防止、子供の人権にかかわる項目が低かった。ふれあい月間や学期末の服務事故防止研修の際にもいじめ防止の講話や各学級での指導をしているが、保護者には伝わっていないようであった。不登校傾向の児童に対して、SSWにつなげ、家庭への支援や登校を促すきっかけ作りを行ってきた。	・いじめ、不登校の解消に向けては、毎月のこころのアンケートを中心に早期発見、早期指導を心がけていく。不登校児童への指導も、家庭との連携を大切にしたい。関係諸機関とも連携を図っていく。		
			いじめ、暴力行為等の問題行動の根絶、不登校の解消を行う。	4 いじめ防止の授業を月に1回以上指導実施 3 いじめ防止の授業を学期に2回以上指導実施 2 いじめ防止の授業を学期に1回以上指導実施 1 いじめ防止の授業を年に2回以上実施	2	C	A 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止、子どもの人権」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止、子どもの人権」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止、子どもの人権」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止、子どもの人権」肯定的評価 55%未満	60.1	C		・SSWにつなげ、家庭への支援や登校を促すきっかけ作りを行ってきた。	・不登校対策として、家庭保護者との連携を大切にして、解消に向けて下さ		
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と食育の充実を通して、基礎体力の向上を図る。	体育の授業改善を行うとともに、一校一取組を充実させ、体力向上を図る。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	2	C	A 学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価 55%未満	74.3	B	・縄跳びタイムを計画的に実施してきたが、学校全体で体力向上に取り組んでいるという意識には至らなかった。	・体育の授業改善では、MIMの考え方を生かし、それぞれの学級でつまづかないための支援を行う。そのことで児童が「できる」を実感し、運動に対して意欲的に取り組むようにしていく。	・清掃活動はよくやっていた。 ・ネットマナーは大切。講演をしてもいい。保護者に自分のこどもの携帯、パソコンの使い方をよく監視させるべき。	A	
			食への関心を高め、家庭との連携を図りながら教育活動全体を通して、組織的・計画的に行う。	4 全ての指導場面で実施 3 90%以上の指導場面で実施 2 80%以上の指導場面で実施 1 80%未満の指導場面で実施	2	C	A 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%未満	85.8	A	・アレルギー対応をはじめ、給食だよりや給食メニューに工夫を凝らしたことで、児童、保護者ともに食への関心を高めることができた。	・給食だよりの内容を今後も充実させ、保護者に食への関心を高めたい。	・「おはなし給食」のメニュー提案は80近く集まり、本を読み、物語に登場するメニューに関心をもち、どのように作られているのかを料理の本で調べて、給食で食べながらどうかを考えていく。子供が考えて一緒に作っているという流れを何人もの子供が取り組んでいた。児童と保護者に一緒に作っているのが楽しそうだった。楽しみながら食育が出来る企画だと思いい、行っている。		
			児童の安全指導の充実、非行・犯罪・被害防止教育の推進を図る。	清掃活動を徹底し、気持ちよく学習できるきれいで豊かな環境づくりを心がける。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3	B	A 学校評価アンケート「カ」①「校内整備や校内美化」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「カ」①「校内整備や校内美化」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「カ」①「校内整備や校内美化」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「カ」①「校内整備や校内美化」肯定的評価 55%未満	74.1	B	・毎週の看護当番の引継ぎで、今週の子供たちの様子から次週の指導の課題を各学年で検討したことは、指導により具体的になり、とてもよかった。クロムブックの使い方については、一部児童への徹底ができていなかった。	・清掃活動も引き続き児童に意義を理解させ行わせていく。 ・学校公開時に外部講師を招いて、児童と保護者にネットマナーについての授業を行い、家庭でのネットマナーへの啓発を図る。 ・毎週金曜日の生活指導夕会で、課題を共有し、次週の指導へつなげていく。		・子供達の体力向上、「やらされている」と思っているがやっていると良い。苦手な子に多い気もするが、達成感を感じる前に劣等感に浸る子もいる。「できる、できた」の実感の回数を増やせる内容にしたら良い。
			危機管理情報(健康、問題行動、安全、交通事故防止、不審者対応、ネットマナー等)を校内で共有し、翌週の指導の重点としていく。	4 90%以上の学級が取り組んだ 3 80%以上の学級が取り組んだ 2 70%以上の学級が取り組んだ 1 70%未満の指導場面で実施	2	C	A 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 85%以上 B 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 55%未満	80.6	B					
その他	「学校2020レガシー」の構築を通して、共生社会の実現を目指す。	外部人材等と連携し、人権感覚、共生意識、国際感覚の醸成を図る。	日本人学校派遣教員やJICA派遣教員、町田の丘学園との交流を通して、海外の文化、日本文化、障がい者等への理解を図る。	4 90%以上の学級が取り組んだ 3 80%以上の学級が取り組んだ 2 70%以上の学級が取り組んだ 1 取り組んだ学級が70%未満	3	B	A 全職員の達成度評価「当てはまる」「だいたい当てはまる」 85%以上 B 全職員の達成度評価「当てはまる」「だいたい当てはまる」 70%以上 C 全職員の達成度評価「当てはまる」「だいたい当てはまる」 55%以上 D 全職員の達成度評価「当てはまる」「だいたい当てはまる」 55%未満	71.9	B	全校朝会で、JICA派遣教員の現地の様子を紹介することができた。町田の丘学園との交流も計画的に実施できた。	次年度も日本人学校派遣教員がいるため、国際理解や4年生の総合的な学習の時間を中心とした障がい理解教育を推進していく。	・海外に派遣でいかれた先生方の貴重な意見をきけるのはとても良いこと。 ・小学校と地域各団体と連携は出来ている。子ども達が安心して、楽しい地元だと思っている。	A	